

月4日

拝啓仕候。今般新潟丸

にて、社員川田小一郎そく息龍吉、石川七財じなん二男正吉、兩人機械学英学しゆぎょうのため為修行御地へ差立候に付ては彼かれ是御面倒の御事とこれ奉存候ぞんじたてまつりそうちへ共何卒えどもなにとぞしかるべきよう可然様御教示御世話被仰付度おおせつけられたくひとえにいのり偏奉祈たてまつり申候。右兩人は小生腹心の社員の者にてすなわち則同人等の成立は万々しょうせいにおいて於小生も希望の儀に付、万端よろしき宜敷よふ御引立被遣度つかわされたく千万

御依頼申上候。当今薩人

等西郷氏を魁かいとし、逞兵

壹万五千人の猛勢にて

昨三日朝より夜通し今日十

時迄も接戦たえざるよし不絶由、電

報あり。是は肥後地高瀬

木の葉辺の戦なり。是書

状到着仕り候節は、最早

旧聞にぞくしもうすべくそうらえども属可申候へ共、不とり

取敢あえずそうそう勿々右耳得尊意のみそんいをえ

申候。もうし余はこうしんをきし期後信申候。

時下厚御自玉奉希候

恐惶頓首

岩崎弥太郎

三月四日

上野全権公使様

御侍史